

和し 鍛え 学ぶ

子どもの頃、不思議に思っていたこと

子どもの頃に不思議に思っていたことで、今になってわかったこと。そういうことはありませんか？私はあります。

自分が子どもの頃に「なんでかな」とすごく不思議に思ったこと、それは「おばあさんや、おばさんは、面白くなくても笑う」ということです。こうして真剣に書いていること自体、笑えてきますが、子供心に「ふしぎだなあ」といつも思っていました。



6月：中庭の紫陽花が満開です

子どもの頃、近所のおばさんと自分の母親がしゃべっているのを見る機会が日常的にあったのですが（いわゆる井戸端会議）、なにがそんなに面白いのだろう？と感じる内容の会話でも、双方ともに笑っています。子供の目から見て「おばさん」（当時の自分の母親も含めて、子供から見たら、おばさんですよね）が笑いながら会話をしている姿。今となってわかるのですが、笑顔は人間関係の潤滑油であることを、おばさんやおばあさん（笑顔が眩しいおじさんやおじいさんもです。失礼しました）は経験として培ってきたのではないでしょうか。

怒った顔も必要です。真剣な顔も必要です。言葉と表情があまりにもかけ離れていると相手は混乱しますし、気持ちが伝わりません。笑っては失礼な場面、不謹慎ととられる場面もあります。ですが、日常生活において、いつも仏頂面で不機嫌をまき散らしている人よりも、明るい笑顔でいる人のほうが周りを気持ちよくさせるし、誰だってそういう人のそばに寄っていきたくなるのではないかでしょうか。

今の学習指導要領のキーワードは「生きる力」です。笑顔で話すおばさんの姿。面白くなくても全力で笑い転げるおばあさんの姿。それはまさしく「生きる力」を体現していたように思います。

